

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170102459		
法人名	医療法人社団 護洋会		
事業所名	グループホーム高橋クリニック		
所在地	岐阜市栄新町35丁目100番地 (電話) 058-232-2122		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年5月8日	評価確定日	平成19年7月23日

【情報提供票より】 (19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤13人, 非常勤10人, 常勤換算18,8人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火 造り
	3階建ての 1～3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有 (100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,130 円			

### (4) 利用者の概要 (4月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	2	要介護2	7		
要介護3	10	要介護4	4		
要介護5	4	要支援2	0		
年齢	平均 85,9 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団護洋会 高橋クリニック
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町中にある3階建ての3ユニットのホームで、リビングからは岐阜城が望める。母体は医療法人で、関連の機関も敷地が隣接し、密接な支援の関係が保持されている。24時間対応可能な医療体制やターミナルケアへの取り組みもあり、利用者や家族から信頼と安心が寄せられている。法人代表はクリニック院長で、毎日、利用者の状態を把握しにホームを訪問しており、ケアや職員教育に熱心に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	勤務形態に配慮して、各職員が年間1回以上研修を受け、他の職員に報告し、知識の共有を図る事により職員の質の向上を図るように改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価と職員アンケートを実施し、日々のケアの確認と今後の課題について話合った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年度から始まった運営推進会議は、ホームの役割、日常生活等、グループホームを知っていただくことより始められている。更には、ホームへの要望や課題を提唱してもらい、サービスの向上に活かすと共に地域に密着したホームになるよう地域とのパイプ役として運営推進会議を活用されたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月に1回ホーム便りを発行し、一人ひとりの利用者の近況を書き添え報告したり、フロアに日常生活の写真を掲示し様子を伝えている。更には、以前実施していたというホームに対するアンケート等で家族の意向や希望が聞き取り、運営に反映していく取り組みが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	母体のクリニックと地域との関わりが深いため、ホームは地域の方々に認識されている。また、中学生の訪問や、太鼓・餅つきボランティアの受け入れ等交流が図られるよう努められている。更には、地域の方が気軽にホームに立ち寄ってもらえるような顔なじみとなる関係づくりへの取り組みが期待される。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に密着した医療と介護を総合的に提供する」ことを目的とした理念が作られている。利用者の多くは代表者をかかりつけ医とし、入居前からの信頼関係がある。利用者の日常が安全で楽しい暮らしになるように支援するサービスの提供を目指してしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念に基づくサービスの提供・実践は職員で決まると考え、日常的に繰り返し法人の目指すサービスについて共有できるよう業務に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム設立以前より近隣や地域とのかかわりを大切に取り組んでいる。自治会や地域の行事開催時に広い駐車場を会場に提供するなどし、地域の方々と交流できる機会を作っている。中学生の職場訪問や保育園児の訪問交流があり、利用者から喜ばれている。	○	更には、地域の方たちと顔なじみになり、何かの折にはホームに立ち寄っていただける関係づくりへの取り組みが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえ、職員研修の機会を作る課題に取り組み、勤務体制を整えた。今回の評価を受けるに当たり、日常のサービスの提供について職員アンケートを行い、利用者への支援やケアの提供等具体的な内容についての振り返りの機会とされた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族、自治会、老人会、包括支援センターの職員等をメンバーとして開催している。昨年度からの開催で、これまでは、ホームへの理解を得るための報告や質問に答える場となっている。	○	ホームへの要望や課題等を提唱してもらい、外からの視点がホームに入る取り組みが始まった。会議での提案や課題を検討し、サービスの向上に反映されていくことが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の方に質問したり対応していただく中でつながりが出来てきた。	○	ホームの特徴が活かされた活動を市町村と話し合われ、地域に発信する取り組みが期待される。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回発行されるホーム便りに、日常の様子を知らせる欄を設け、個別の暮らしぶりを記入し、家族に報告している。金銭については入所時契約を交わし実践している。		さらに、面会になかなか来れない家族への報告や家族が知りたい情報の内容など検討し、報告する取り組みも期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の発言や声が気兼ねなく出してもらえるように、職員は、面会時に声を掛けたり、話しやすい関係づくりに努めている。問題が生じた時は、担当職員を中心に家族にも検討会議にかかわってもらい、早期の解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の関連施設への異動はほとんどないため、利用者にとっては馴染みの関係ができています。職員が離職する場合も大きなダメージが生じないよう工夫している。		職員はどのユニットにも勤務するため、個別の担当制はとっているが、利用者との馴染みの関係づくりが途切れないよう取り組んでおり、継続が期待される。デイサービスの職員との顔なじみの関係もできており、行事時応援をしてもらう場合も安心である。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員には外部研修の情報提供があり、勤務を工夫し受講する。管理者は、職員アンケートを行い必要な研修の情報提供を行っている。外部研修を受講した場合、他職員への伝達の勉強会がある。</p>		<p>年間1回程度の外部研修受講への機会が全職員に持てるよう配慮されるようになったが、さらに多くの機会が作られるよう工夫が期待される。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会との交流や専門職の研修会に参加し、ネットワークづくりに取り組んでいる。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者は健康診断をかねてクリニックを受診・事前面接を実施し、入居後の生活や医療について分かりやすく説明がされる。また、法人のデイサービスの利用からホームに入居された利用者も多い。入居後もデイサービスの利用が可能で、職員とも馴染みの関係である。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として接する姿勢でケアを提供している。利用者と一緒に過ごしながら共に支えあう関係を日常で実感している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントシートや毎月の個別の日常把握シートに職員の気づきや把握できた情報を書き取り一人ひとりの思いの把握に取り組んでいる。		本人からの意思表示が積極的にできなくなっても、それまでに聞き取った思いや家族からの情報で、本人の思いを想定し支援している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや日常のケアから把握した本人の意向や家族の思いを、記録に残している。記録や把握事項から職員間で、話し合い計画に反映させている。介護計画は個別ファイルに保管し誰もが確認できるようにしてある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所状況報告シートやホーム独自の日常生活動作表、フェイスシートの活用により利用者1人ひとりの状況を把握し記録する。ホームへの来訪が難しい家族には電話連絡を取り意見を聞き取るように工夫している。ほとんどの利用者に月1回以上の面会がある。		家族との連絡は、訪問した家族あるいは電話に出た家族だけに通じた事になりやすいので、更には、書面などで家族側に尋ねたり報告の内容が伝わる方法の取り組みも期待される。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の理学療法士や歯科衛生士がホームを訪問し、利用者のケアを行ったり、デイサービスを利用するなど事業者の多機能性を活かしている。医療法人であることから終末期の入院回避等様々な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者が母体法人クリニック医師をかかりつけ医師にしているが、他医療機関への受診支援も必要に応じ支援している。受診の場合は家族への報告を行う。		他医療機関は原則家族が受診支援するのであるが、家族の都合がどうしても付かない場合はホーム職員が支援している。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前面接時から法人代表者から、重度化した場合や終末期について、本人や家族に詳しい説明が繰り返し行われる。また、家族からの質問に答えながら話し合い、方針を確認している。代表者から職員への詳しい説明もあり、方針の共有ができています。		職員は、終末期のケアについて母体法人クリニック医師から方針の説明を受け共有しているため、本人や家族の意向に沿えるように取り組んでいる。他の利用者への影響を懸念したが、落ち着いた雰囲気の中、見守られることを経験されている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の一人ひとりを大切にした接し方や日常を支援する姿がある。		昼夜稼働するモニターがある。プライバシーの点からも活用を、夜間のみ安全確認対応での使用とする等取り組みを検討することが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を部屋でとる状態であったり、ターミナルの方もいることから利用者のペースで暮らしている。法人のデイサービスを好む方は毎日利用することも可能で、利用者の希望にそって支援している。		管理者は、大変笑顔がよく、いきいきとレクリエーションへの参加を呼びかけていた。レクリエーションの内容を工夫し、食べることのみが楽しみではなく、別の刺激もあって楽しく生きてもらいたいと取り組んでいる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者は料理や家事は無理に進めない方針であるが、利用者の気持ちに合わせ、楽しくできる範囲でおやつを職員と一緒に作っている。調理は外部委託であるが嗜好アンケートを行い献立や味付けに取り入れている。		家事を積極的に進めていないが、入居後一緒にしたいと参加される方がいるので、気持ちを大切に受け止め、本人の力に合わせ見守ったり支援している。献立希望や味付けのアンケート調査を現在より回数を増やす等取り組まれると更に良い。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の見守りや介護により、週2回、日中に、一人ひとり入浴している。ホームでの入浴が困難な方は、デイサービスの特殊浴を利用し入浴する。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	法人のデイサービスに毎日出かけるのを楽しむ方や、ホーム内でカラオケや習字、作品作りをする等希望に添った支援をしている。季節により、法人間の職員が協力し、デイサービスの車を利用した花見などの外出を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度の利用者が多く、ホーム敷地内の庭や畑への散歩が主になる。天候が良いとホーム前の庭でお茶を楽しみ、外の空気にふれ、気分転換を図っている。	○	安全を最優先することから周辺への散歩や買い物等外出の機会は回数が伸びない。ホーム外への外出支援の取り組みの検討が期待される。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入り口の自動ドアの開閉は職員が管理している。1階から3階までの移動は自由にできる。ユニットの中央に階段があるが職員は常に視野に入れている。		建設時に各部屋に鍵が取り付けられているが、その活用は無い。これまで部屋の鍵の使用が無く事務所に鍵が保管されているが、広いホームでの、災害時等の鍵の取り扱いや対応を検討されることが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署による避難訓練がある。外付け階段が無いので消防署と相談し、避難用の円筒を設置した。	○	更には、実際に利用者と一緒に外へ非難する訓練や、有事の際には協力が得られるよう近隣の方に呼びかけると訓練がより有効なものになると思われる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立に添って外部業者が調理し、ホームに搬入する。利用者の嚥下状態に合わせ職員が刻みやミキサー食にしている。適温のお茶がいつでも飲めるようにテーブルに置いてある。食事や水分の摂取量は把握し記録に残している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に観葉植物や季節の花の鉢を置き、季節を感じられるように配慮している。外出や行事時の写真が貼られたり、作品が飾られ生活感のある空間を作っている。採光や臭気に十分配慮し、清潔感がある。また、住宅街であるが窓を開けていても騒音が無く落ち着いて過ごせる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔で、淡いピンク系寝具、椅子、ベッド、クローゼット、掛け時計をホームで用意している。家族とも話し合い、写真や衣装引き出しが搬入されているが、比較的搬入品は少なくすっきりとした部屋となっている。		更には、使い慣れた品や思い出の品等の搬入や入れ替えについても家族に働きかける取り組みも期待される。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。